

# 10月 ホットニュース

2023年 10月 2日

『運動あそび参観日』が近づいてきました。子どもたちはといえば、普段と同じように幼稚園での遊びを楽しんでいるのですが、その遊び方が少しずつ変化しています。

『運動あそび参観日』当日の展開が読めないのですが、逆に楽しみでもあります。

## 【月組 サーキット】

9月のはじめ頃、まだ熱中症に注意が必要だったので、担任教諭は室内でも身体を動かせるようにと小型の太鼓橋を置いてみました。太鼓橋の下にはマットを敷き、渡りきった先に厚手のセーフティマットを設置しました。すると、子どもたちはセーフティマットが珍しかったようで、上に乗ってわいわいと。

「落ちちゃダメだよ！落ちたら海だよ」と楽しんでいました。そして、その頃子どもたちが熱中して空き箱やテープで作っていた何体もの恐竜を乗せて並べたところで「ここは恐竜島だ」となり、「恐竜島への恐竜探検をしよう」と探検コースを考え始めました。

担任教諭は子どもたちに作りたいものを尋ね、「それを作るには何が要る？」というセリフを繰り返すだけで、子どもたちは「お城を大型積木で作りたい」と言っていて遊戯室から運び込んだり「虹色のお城を作ろうよ」と画用紙を持ってきたりしました。

子どもたちのやる気とアイデア満載の探検ツアーでしたが、「お部屋じゃ狭いね。どこならいっぱい遊べる？」と声をかけてみると、子どもたちは「遊戯室！」と大喜び。そして、そこに簡易のわたり棒や蛇腹トンネルが加わり、なんとなくサーキット風のセットができていきました。

子どもたちの挑戦意欲が一番向けられたのが、わたり棒です。握力、腕力、体幹力、タイミングの取り方など、少しずつ上向きにはなっていますが、なかなかままならないのです。それでもチャレンジする姿勢が途切れないことに感心するばかりです。

そしてある朝、そのサーキット一式を「園庭に運び出してみよう！」という担任教諭の掛け声に、子どもたちはニコニコしながら次々に運び、そして組み立てました。当日はどんなサーキットコースになっているのかな？



## 【花組 リレー】

ある日、担任教諭が輪っかのバトンを出しておきました。それを見つけた6人の子どもたちが、さっそくリレーを始めました。園庭西のトンネルの丘から走り出し、園庭東の土山を登って戻ってきてバトンパスというものでした。ところが、土山の向こうを回る子もいれば手前でターンする子も。バトンを投げて渡そうとしてコロコロ転がるバトンを拾う子がいれば拾い終わるのを待ってあげる相手チームの子もいる。のどかで緩いルールのリレーを楽しんでいました。そんなリレー遊びが何日か続きました。毎日毎日遊びの振り返りで「楽しかったあ！」という感想が出されて「みんなでやりたい！」と言い出す子が続出しました。全員が2チームに分かれてのリレーでは、ターンの仕方や走るコース、バトンの渡し方など、“不公平さ”が噴出しました。その後、折り返し地点にタッチ板が立てられるなど、振り返りのたびに子どもたちの案で改善が繰り返されました。やがて周回コースのリレーをしたいと、自分たちで白線を引き始めました。面白いことに、子どもたちが描く白線の周回コースは、ある日は砂場の方に引かれたり、ある日はすべり台の周りに引かれたり・・・。トラックじゃないんです。

かれこれ3週間にわたるリレー遊びですが、走る順番決めの相談をするボードや番号入りの腕バンドなど、子どもたちのアイデアを担任教諭がうまく形にしなが、リレー遊びに磨きがかかっています。当日はどこを走るリレーになることやら？



『運動会』ではなく『運動参観日』でもなく、『運動あそび参観日』にしている意味がお分かりいただけでしょうか？子どもたちのアイデアや改善の積み重ねであそびが楽しくなっていきます。そのあそびの過程の1日を見ていただくことになります。

環境の変化に敏感な子どもたちへの配慮として、万国旗も入退場門も進行アナウンスもありません。“頑張ることを楽しむ”わが子の姿を確かめに来てください。